

平成16年3月期 第3四半期業績の概況 (連結)

上場会社名 株式会社 安楽亭

(URL <http://www.anrakutei.co.jp/>)

代表者 代表取締役社長・柳 時機

問合せ先 経理部次長 ・長木 聖治

平成16年1月30日
(コード番号:7562 東証第二部)

(TEL:(048)-859-0555)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高(又はこれに相当する事項)の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有・**(無)**

2. 平成16年3月期 第3四半期業績の概況(平成15年4月1日~平成15年12月31日)

(1) 連結売上高(又はこれに相当する事項) (単位:百万円未満切捨)

| | 百万円 | % |
|---------------|--------|-----|
| 平成16年3月期第3四半期 | 24,986 | 0.6 |
| 平成15年3月期第3四半期 | 25,139 | - |
| (参考) 平成15年3月期 | 33,883 | 0.9 |

(参考1) 個別売上高 (単位:百万円未満切捨)

| | 百万円 | % |
|---------------|--------|-----|
| 平成16年3月期第3四半期 | 21,382 | 5.4 |
| 平成15年3月期第3四半期 | 20,280 | - |
| (参考) 平成15年3月期 | 27,692 | 1.5 |

(注)・売上高(又はこれに相当する事項)は、当該四半期までの累計値であります。

・パーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。

・売上高の数値は監査法人による監査を受けておりません。

(参考2) 販売実績

当第3四半期の販売実績をセグメント別ごとに示すと、次の通りであります。

(単位:百万円未満切捨)

| 事業の種類別セグメントの名称 | 平成16年3月期 第3四半期 (当第3四半期) | | 参 考 前期(通期) | |
|----------------|-------------------------------|-------|---------------|-------|
| | 売上高 | 構成比 | 売上高 | 構成比 |
| レストラン事業 | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 店舗売上 | 20,984 | 84.0 | 28,671 | 84.6 |
| 食材売上 | 179 | 0.7 | 276 | 0.8 |
| ロイヤリティ収入 | 67 | 0.3 | 98 | 0.3 |
| その他 | 152 | 0.6 | 64 | 0.2 |
| 小計 | 21,382 | 85.6 | 29,110 | 85.9 |
| 書籍販売事業 | 1,814 | 7.3 | 2,369 | 7.0 |
| 食材加工販売事業 | 420 | 1.7 | 610 | 1.8 |
| 印紙・タバコ販売事業 | 193 | 0.8 | 217 | 0.6 |
| 食品・酒類卸販売事業 | 1,040 | 4.2 | 1,444 | 4.3 |
| その他事業 | 136 | 0.4 | 130 | 0.4 |
| 合計 | 24,986 | 100.0 | 33,883 | 100.0 |

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 上記金額には消費税は含まれておりません。

3 レストラン事業の店舗売上とは、直営店舗における売上であり、前期には(株)上海菜館が連結となっておりました。食材売上とは、暖簾・FC店舗に対する食材の提供の卸売上であり、その他の売上は、タバコ売上、メンテナンス売上、加盟金収入であります。

また、その他事業は、運送業、不動産賃貸業、ソフトウェア開発業であります。

[売上高(又はこれに相当する事項)に関する補足説明]

外食産業におきましてはデフレ、個人消費の低迷等による売上不振が続いており、総じて厳しい状況が続きました。当社レストラン事業の当第3四半期における各月の売上高は、10月101.1%(既存店97.2%)、11月102.0%(既存店99.0%)、12月89.8%(既存店87.8%)と推移致しました。なお、12月はBSEの影響により当期初めて前年割れとなりました。

このような状況の中、当社グループでは、グループ全体による一貫した素材調達等の優位性を生かし、安全性を最優先するBSE対策をとっております。また、コア事業である焼肉レストラン「安楽亭」では、「宝くじ」キャンペーンの実施、年末の忘年会シーズンに合わせた鍋料理等の新メニューの導入、またラジオ番組を再開するなど来店客数の増加を図る一方「安全で健康に配慮した食材」を使って、「心のこもった調理と思いやりのあるサービス」を実践してまいりました。なお、連結売上高につきましては、前年に不採算事業の(株)上海菜館を売却しており、連結売上高より抜けたこと、及び食材加工販売事業において、市場環境の影響より外販を控えたこともあり1億53百万円の減収となりました。

(2)当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

当社グループは有利子負債の一層の圧縮を図っており、当第3四半期につきましては、殿町物件(遊休不動産)を15億円で売却(特別利益2億83百万円)、浦和物件(子会社物件)を1億50百万円で売却(特別損失99百万円)しております。

3.平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

当第3四半期に関しては、概ね当初予想通りに推移しており、現段階では当初の業績予想を継続いたします。今後の事業の推移により変更が見込まれる場合には、適宜、修正・開示致します。

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期に関して売上高につきましては、主力の「レストラン事業」はBSE禍の終息で好転してまいりました。しかし昨年12月米国でもBSEが発生しました。今回の消費者の反応は冷静であり、12月のBSEによる売上への影響は10%程度でありました。

また、米国産牛肉の緊急輸入停止措置もとられました。当社として今期は、現有在庫の消化で対応可能ですが、今後の対応策として、創業40年の豊富なノウハウを生かした韓国料理等の導入など新メニューの準備を行っております。また、当社は「安全・安心」の強化と、新たな販売促進策等、一層の営業努力により業績の確保に努めたいと考えております。

損益面では、牛肉・米・野菜といった材料価格が上昇しておりますが、円高及びデリバティブの営業外収益とほぼ相殺と見込んでおります。

なお、第4四半期におきましては、田島物件(旧第2田島工場跡地)を5億21百万円で売却する予定であり、特別損失35百万円を見込んでおります。

予想値につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上